

市民後見人養成講座 受講者の声



ai ちゃん(あいちゃん)・・・仙台市社会福祉協議会 PR キャラクター

令和 7 年度に開催した「第 4 期市民後見人養成講座」を受講された方の生の声（市民後見人になろうと思ったきっかけや受講を決めた理由、感想や今後の目標など）をご紹介します。

★ご本人の希望を見出す市民後見人を目指して

(A・E さん)

「市民後見人」という言葉を初めて目にしたのは、市政だよりの市民後見人養成講座の募集記事でした。後見人について概要は理解していましたが、その仕事を市民として努めるということに関心を持ち、約半年間という短期間で勉強できる点と、毎年募集ではないため、次のチャンスがいつあるかわからないことに背中を押され、受講を決めました。

勉強から長く遠ざかっていたので、講義についていけるか不安もありましたが、これまで自分の人生で触れてきたこと、こなかったこと様々な内容があり、楽しく学ぶことができました。また同じ志を持った方々とのコミュニケーションも心の支えになりました。



これからの成年後見制度は、法改正により類型の変更が決定され、後見人を取り巻く環境はこれまでとは異なる部分も多くなっていくかと思います。しかし、その中でも大切なことは、人と人とのやりとりだと思いますので、私はご本人と誠実に向き合い、ご本人の希望が見出せるように導ける市民後見人を目指していきたいと考えています。

(令和 8 年 8 月寄稿)

★同じ地域に住む一市民として、ご本人の思いに寄り添う

(U・Mさん)

私の知人が市民後見人として活躍しており、第4期市民後見人養成講座が開催されるという話を聞いたので、興味があり受講しました。

養成講座を受講する前は、市民後見人の役割はご本人が不自由なく暮らしていくために、快適な生活環境を整えることだと思っていました。しかし、受講してみるとそれは間違いであることが分かりました。

市民後見人の役割は、意思決定支援だということです。私の考えや、社会通念を押し付けてはいけないということ、ご本人がどのような人生を望むのか、それを実現するための支援を行うことが後見人の役割だと学びました。また、ご本人の考えを知るためには、情報提供を丁寧に分かりやすく行う必要があります。

ご本人の話をじっくり聞くのは根気が必要ですが、ご本人が思っていることを安心して言ってもいいと思える関係性を築くことが重要です。

私は、ご本人と同じ地域に住む一市民としての目線で、ご本人の思いに寄り添い、一緒に悩んで解決しようと頑張る市民後見人になりたいです。



(令和8年8月寄稿)